

絵本読んで 英語。ペラ。ペラ

人間はどうやって言葉が話せるようになるのか。実はその仕組みはよくわかっていない。言語学最大の有名な仮説は「普遍文法」という考え方だ。

「子どもが自然に言葉を話し始めるのは、脳の中に言語を獲得する仕組み、普遍文法が生まれながら備わっているからだ」と、言語学者のノーム・チョムスキー米マサチューセッツ工科大教授が提唱した。

言葉が話せるようになるには、この普遍文法を基礎に脳の中で一種の組み替えが起きるからだという。脳が急速に発達する幼いうちに組み替えが済むとほかの言語に対応しにくくなる。

組み替え後、どの程度、外国語に対応できるのかに

人になっても対応できると考えている。大学生でも子どもが母語を学ぶやり方で指導する。最近人気の勉強法で、「力士式」に近い。

教室では学生が英米の幼児向け絵本を読んでいた。大を追い払う少年の絵が描かれ、ひとこと「Go away(あっち行け)」。

辞書は引かせない。日本語に置き換えずに、英語のまま理解させる。次第に難易度を上げ、1万語あたりからペーパーバックの小説が読めるようになる。早い人なら1年半ほどという。

聴く、話す力は童話の朗読や映画で養う。意味がわからなくても俳優のせりふをおろろ返しに繰り返させる。

最初はニヤムニヤとしかいえないが、次第にきれいな発音になるという。酒井助教授は「辞書を引く従来のやり方よりも、自然な英語を短期間で習得でき」と力説する。

しかし、こうしたやり方には、大人になると対応は難しいとの立場から根強い批判がある。現実的ではないというのだ。

静岡大の白畑知彦教授(第一言語習得論)は「大人にはそもそもはない一般常識があるのだから、文法を学び辞書を引く方が効率的」という。

脳の組み替えが済んだ大人が外国語を学ぶと、脳でどのように起こるのか。

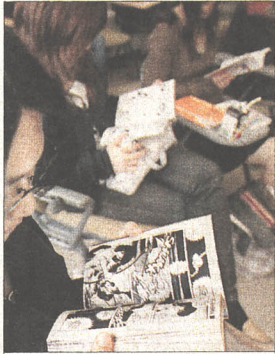
東京大の酒井邦嘉助教授(言語脳科学)は、脳の特定部分の血流量を画像化できる装置を使って、初めて英語を学んだ中学生14人と大学生15人に動詞の過去形の変換について聞き、血流量の変化をみた。

その結果、中学生は文法処理をつかさどる部分の血流量が増えたが、大学生は正しく答えているのに変化は少なかった。

「大学生は英語に対応できるように脳で再度組み替えが起き、脳の働きが節約されたからではないか」と酒井助教授。

とにかく、大人でも外国語を習得できないわけでもないらしい。希望を捨てずにこつこつと、がんばってみよう……。

Wonder in life



授業で英米人向けに翻訳された日本の漫画を読む学生たち＝東京都調布市の電気通信大で

電気通信大の酒井邦嘉助教授(英語教育論)は、大

力士式が人気

大を追い払う少年の絵が描かれ、ひとこと「Go away(あっち行け)」。

辞書は引かせない。日本語に置き換えずに、英語のまま理解させる。次第に難易度を上げ、1万語あたりからペーパーバックの小説が読めるようになる。早い人なら1年半ほどという。

聴く、話す力は童話の朗読や映画で養う。意味がわからなくても俳優のせりふをおろろ返しに繰り返させる。

最初はニヤムニヤとしかいえないが、次第にきれいな発音になるという。酒井助教授は「辞書を引く従来のやり方よりも、自然な英語を短期間で習得でき」と力説する。

しかし、こうしたやり方には、大人になると対応は難しいとの立場から根強い批判がある。現実的ではないというのだ。

静岡大の白畑知彦教授(第一言語習得論)は「大人にはそもそもはない一般常識があるのだから、文法を学び辞書を引く方が効率的」という。

脳の組み替えが済んだ大人が外国語を学ぶと、脳でどのように起こるのか。

東京大の酒井邦嘉助教授(言語脳科学)は、脳の特定部分の血流量を画像化できる装置を使って、初めて英語を学んだ中学生14人と大学生15人に動詞の過去形の変換について聞き、血流量の変化をみた。

その結果、中学生は文法処理をつかさどる部分の血流量が増えたが、大学生は正しく答えているのに変化は少なかった。

「大学生は英語に対応できるように脳で再度組み替えが起き、脳の働きが節約されたからではないか」と酒井助教授。

とにかく、大人でも外国語を習得できないわけでもないらしい。希望を捨てずにこつこつと、がんばってみよう……。

読む力 成人も向上

読めても、話せない、聞き取れない——日本人英語の特徴だ。学習が読解に偏っているからだといわれているが、それだけでもなさそう。

東京大の酒井助教授の研究では、文法、文章理解、単語、アクセントなどを脳の別々の部分で処理していることがわかった。

音を認識する部分はかなり早い段階で発達する。一度、組み替えが起きると、この部分は変わりにくい。

「l」と「r」の発音が苦



手なもの、外国語のかかなりの達人でもなかなかアクセントのくせが直らないのも、このせいなのかもしれない。

一方、文字を認識するの

は顔や色を区別する部分に近い。いつまでも脳に柔軟性があるので、読む力は大人になってからでもかなり向上する可能性があるという。

個室で新聞を手にくるる旭大 鷗。洋画は日本語吹き替えて見る＝東京・而国の大島部屋で